

平成 30 年 1 月
国際統括官付

ユネスコ中期戦略(C/4)の策定について

【C/4について】

- ユネスコの活動に関する戦略的見通し及び事業の枠組を定めた8カ年の戦略。ユネスコの事業運営に関する基本文書。
- ユネスコ総会において事務局提案が議論され、加盟国が承認する。
- ユネスコの事業・予算案(C/5、事業:4カ年、予算:2カ年)の策定・更新にあたっても参照される。
- 現行の中期戦略は 2014 年～2021 年の8カ年。「平和」と「持続可能な開発」の2つの包括的目標の下に、その実現にあたっての9つの戦略目標を設定。また、「アフリカ」及び「ジェンダー平等」の2点を地球規模の優先課題として設定(別添参照)。

【C/4策定のスケジュール】

加盟国との地域ごとのコンサルテーションや、ユネスコ執行委員会、ユネスコ総会等で議論を実施。現行 C/4(2014-2021)策定時のスケジュールは以下のとおり。

2011 年 11 月	第 36 回ユネスコ総会(「C/4 案の準備」として、 <u>主な観点</u> について議論)
2012 年 5 月	加盟国、政府間機関等への質問調査
2012 年 6 月～9 月	事務局長による地域諮問会議 (アジア太平洋地域は 6 月に実施)
2012 年 10 月	第 190 回ユネスコ執行委員会(地域協議等を踏まえて作成した C/4 予備提案の審議)
2013 年 4 月	第 191 回ユネスコ執行委員会(C/4 案についての審議)
2013 年 9 月	第 192 回ユネスコ執行委員会(C/4 案についての審議)
2013 年 11 月	第 37 回ユネスコ総会(案の審議・決定)

※このスケジュールを踏まえると、C/4(2022-2029)の策定プロセスは、2019 年の第 40 回ユネスコ総会で開始される可能性あり。

37 C/4(ユネスコ中期戦略(2014-2021)) 概要

37C/4においては、学際的アプローチ、パートナーとの連携協力、結果に基づく管理運営、ユネスコのレジリエンスの向上、国際協力等について、全体を通じて重視。

1. 変化する国際環境及び開発に関する状況の進展

- 地球規模で進展する環境問題等、あらゆる変化が起きている中、ユネスコの国連システムの中での役割は一層重要
- 学的知見の活用、学際的なアプローチの実施、ユースの活用等、新たなアプローチを行う必要性

2. ユネスコ中期戦略(2014-2021)の基本方針

- ① ユネスコの使命と優先課題の焦点化
- ② ユネスコの役割の定義付け
- ③ 地域事務所のネットワーク改革の実施
- ④ 更なるイノベーションと創造の推進
- ⑤ 他機関・団体との連携協力の強化

3. ユネスコの使命(ミッション・ステートメント)

- 国連の専門機関として、ユネスコ憲章に基づき、教育、科学、文化、情報・コミュニケーションの各分野を通じて、平和構築、貧困撲滅、持続可能な開発、文化間の対話に貢献

4. ユネスコの機能

- ① 革新的な提案や政策提案の策定
 - ② 政策分析やモニタリング等を通じた国際的アジェンダの開発と強化
 - ③ 規範や基準の設定とその実施の支援及びモニタリング
 - ④ 国際的及び地域的な協力強化及び知的協力の実施
 - ⑤ 政策の立案・実施、及び、機関・人材の育成支援
- ※ 政策支援と人材育成の適切な実施にあたっては、できる限り権限を地域レベルに移譲する

5. 国際的優先事項(グローバル・プライオリティ)

- プライオリティ・アフリカ
 - 教育・訓練の充実、科学的知見の活用、強靱な社会の構築
- ジェンダー平等
 - 関連事業の実施及びジェンダー平等の理念の各事業等への浸透

6. 包括目的

- ユネスコの全ての戦略目的やテーマ分野は、①平和—永続的な平和への貢献
- ②平等かつ持続可能な開発—持続可能な開発及び貧困撲滅への貢献、の2つの包括目的に対応
- 2つの包括目的は、2つのグローバル・プライオリティと、ユース、後発開発途上国(LDCs)、小島嶼開発途上国(SIDS)、転換期の国、にも考慮

7. 戦略目的

- ① 万人のための質の高い・包摂的な生涯学習を促進する教育制度の開発支援
 - －本戦略の最初の4年間における優先分野:①識字②TVET③高等教育
 - －教育の質の向上のため取り組むべき課題:①教員養成②ICT教育③授業改善
- ② 学習者の創造性及びグローバル・シチズンとしての責任の強化
 - －地球規模の課題に対して、学際的なアプローチで解決を模索
 - －促進すべき教育分野:①グローバル・シチズンシップのための平和と人権教育②ESD③性教育を含む健康教育
- ③ 万人のための教育(EFA)の促進と将来の国際教育アジェンダの形成
 - －EFAの主導機関として、教育の進捗状況に関するモニタリングを実施
 - －主要なステークホルダーとパートナー間の調整と協力の強化を実施
- ④ 持続可能な開発のための科学、政策及び社会と倫理的で包括的な政策と連携の促進
 - －各加盟国のSTI(科学技術イノベーション)システムとそのモニタリングへの活用及びガバナンスの改革を支援
 - －国連事務総長の科学諮問委員会の事務局を務めることで、国連システムに対して適切なアドバイスを実施
- ⑤ 平和、持続可能性及び社会的包摂のための国際科学協力の強化
 - －国際的・地域的な科学協力に係る研究アジェンダの形成に貢献
 - －統合的なアプローチである「サステナビリティ・サイエンス」の実践を推進
 - －淡水、海洋、生物圏保存地域(BR)に関する取組の強化
 - －地球規模課題と防災に関する評価とモニタリングに関する国際協力を促進
- ⑥ 包摂的な社会開発の支援及び文化の関係改善のための文化間対話の促進
 - －文化間対話を通じた相互理解との促進
 - －科学技術に関する倫理の国際基準を、国際的なリーダーシップにより振興
 - －ユースが社会に関わり、社会・経済的変革の担い手となることを支援
 - －「スポーツ・フォー・オール」の促進
- ⑦ 遺産の保護、理解促進及び周知
 - －遺産保護を通じて「紛争を避け、平和を構築する力」を育成
 - －危機に瀕する文化遺産と文化的表現の保護を強化し、文化を相違と紛争を激化させるための手段とすることを防止
 - －国家及び地域間の橋渡しとなり得る文化遺産の役割の強化
- ⑧ 創造性の涵養及び文化的表現の多様性
 - －文化と創造的な産業が、雇用創出により、貧困削減に寄与
 - －寄付や奨励金を通じて、芸術家の地位の向上を推進
 - －「クリエイティブ・シティーズ・ネットワーク」を、持続可能な開発及び貧困削減の実験場として支援
- ⑨ 表現の自由、メディア開発及び情報・知識への普遍的なアクセスの促進
 - －知識社会の形成に向け、表現の自由、報道の自由、情報・知識への普遍的なアクセス等を国際的に主導
 - －ICTの一層の普及を通じて、知識社会形成への技術的支援を実施
 - －電子化による文書遺産の保存強化

※ 国連の紛争後調整機能に、効率的かつ本質的な貢献を実施

※ 防災教育、津波観測システムの構築等の取組により、防災への取組を実施

8. 効率化の追求及び結果に向けての管理

2010年の外部監査を受け、組織運営にあたって以下を重視

- ① ユネスコ事業の妥当性、一貫性の改善と焦点化
 - －事業の精選を進めるとともに、地域事務所も含めた包括的な戦略を策定
 - －エビデンスや結果に基づくモニタリングや報告を行い、体系的な評価を実施
 - －事業間の重複を避け、地域事務所への権限委譲を促進
- ② 結果を重視する文化の醸成
 - －予算・成果・成果指標の連携を促進
 - －職員への研修を実施し、事業モニタリングや事業終了に向けての仕組みを整備
- ③ 現場との距離の短縮
 - －ユネスコ本部と地域事務所間で効率的な人員配置を実施
 - －ユネスコ本部と地域事務所間のコミュニケーション向上のためのツールの開発
 - －地域事務所の運営の改善・向上を実施
- ④ 国連システムの中でのユネスコの存在感の強化
 - －他の国連機関と具体的なパートナーシップを締結し、連携・協力を促進
 - －国連システムの資源の加盟国による活用を実現
- ⑤ 包括的なパートナー戦略の実施
 - －地方自治体を含む公的機関や民間企業との戦略的ネットワークの構築
 - －草の根の活動の重要なプラットフォームであるNGOとのパートナーシップ促進
- ⑥ 各国ユネスコ国内委員会との協力
 - －各国国内委員会のもつ政府との関係や知的コミュニティとの関係の強化
- ⑦ 外部資金の獲得
 - －ユネスコの優先課題に直結する官民パートナーシップの一層強化
- ⑧ 効果的な人材管理の実施
 - －地域事務所への不均衡な人員配置等の改善
 - －優秀な専門家や専門職の確保
- ⑨ ナレッジマネジメントとICT
 - －本部と地域事務所のシームレスな情報環境を構築
 - －ナレッジマネジメントの事業実行への組み込み
 - －ICTの知見を総動員し、知識共有と、業務の効率性及び有効性の向上
- ⑩ ビジビリティと広報
 - －広報の実施に係る効率的な機能の策定
 - －広報資料の多言語化の実施
 - －包括的な広報戦略の策定
- ⑪ 賢く環境に優しい実践
 - －紙から電子媒体への転換
 - －全ての会議室のIT環境整備
 - －印刷物の縮減

37C/4:2014-2021年(イメージ)

ユネスコ憲章

ミッションステートメント

ユネスコは、国際連合の専門機関として、またその憲章に従って、教育、科学、文化及びコミュニケーション・情報の分野を通じて、平和の構築、貧困の撲滅、持続可能な開発及び異文化間の対話に貢献する。

包括的目標

平和
(持続的な平和への貢献)

持続可能な開発
(持続可能な開発と貧困撲滅への貢献)

地球規模の
優先課題

アフリカ

ジェンダー平等

戦略目標

戦略目標 1 :

万人のための質の高い・包摂的な生涯学習を促進する教育制度の加盟国による開発の支援

戦略目標 2 :

学習者の創造性及びグローバル・シチズンとしての責任の強化

戦略目標 3 :

万人のための教育 (EFA) の促進と将来の国際教育アジェンダの形成

戦略目標 4 :

持続可能な開発のための科学、政策及び社会と倫理的で包括的な政策との連携の促進

戦略目標 5 :

平和、持続可能性及び社会的包摂のための国際科学協力の強化

戦略目標 6 :

包摂的社会開発の支援及び文化の関係改善のための文化間対話の促進

戦略目標 7 :

遺産の保護、理解増進及び周知

戦略目標 8 :

創造性の涵養及び文化的表現の多様性

戦略目標 9 :

表現の自由、メディア開発及び情報・知識への普遍的なアクセスの促進

紛争・災害後の諸国に対するユネスコの活動領域での支援